

## 寺社を巡る会

# 活動記録書

開催日：令和2年12月3日(木) 天候 曇り	開催テーマ：「釜利谷歴史散策-I 白山道を歩く」
開催場所：金沢区	記入者：横山 美智男
参加人数： 会員 男 20名 女 8名 計 28名 ビジター 男 0名 女 0名 計 0名 合計 28名	
<b>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</b> コース:京急金沢文庫駅(集合)～手子神社～禅林寺～釜利谷小川アメニティー～自性院～畠山六郎重保公廟所～東光禅寺(昇堂)～日月社～白山社(解散)	
<p>白山道は鎌倉と釜利谷を結ぶ道の一つで、朝比奈切通し開削前からの古道。昔は「しらやまどう」、今は「はくさんどう」と呼ばれる。いつ開かれ、いつ頃から、そう呼ばれたかは定かではない。本日は手子神社から東光禅寺を経て白山権現社までの探訪である。</p> <p>金沢文庫駅西口に集合し、宮川沿いに歩いて釜利谷の総鎮守手子神社に着く。釜利谷の領主伊丹左京亮が、文明5年(1473)瀬戸神社の分霊を宮ヶ谷に祀ったのが起源。祭神は大山祇命(オオヤマツミノミコ)。延宝7年(1679)伊丹左京亮の末裔・江戸浅草寺の智楽院忠運が現在地に再建した。</p> <p>次は釜利谷小学校の前を通り曹洞宗の禅林寺へ。本尊は薬師瑠璃光如来。足利持氏が創建しその息子足利成氏の要請で、明応2年(1493)に下総東昌寺二世能山聚藝禅師が開山したと伝えられる。その後、荒廃していたが、伊丹三河守永親が再興した。伊丹氏一族との関係で安永9年(1780)に東照大権現(徳川家康)の御神影が下賜された。毎年家康の命日の4月17日に一般公開されている。</p> <p>釜利谷町小川アメニティーの自然を生かした散策路を通り抜けて、自性院へ到着。真言宗御室派、本尊は聖観世音菩薩。寺伝によると伊丹三河守が二人の子供の菩提を弔うため、永正年間(1504～20)に創建したとのこと。寛永11年(1634)、幕府御用の菓子商大久保主水忠行の夫人蓮臺院日宝尼が建てたといわれる宇賀山王社が本堂右側の山際に祀られている。</p> <p>白山道バス停近くに六郎橋がある。畠山重忠の子の六郎重保に因んで付けられたと伝わる。宮川右支流は暗渠になったが、六郎橋の一部は残されている。そのまま白山道を進むと六郎ヶ谷公園の奥に畠山六郎重保公廟所が見えてくる。柵に囲まれた広い敷地の奥にぽつんと五輪塔がある。入口に横浜市地域史跡の看板があり、この辺りの山中で自害したとの記述がある。吾妻鏡の由比ガ浜にて死亡との関係は如何にと疑問が湧く。</p> <p>釜利谷地域ケアプラザを超えて進み、臨済宗建長寺派の東光禅寺に到着。探訪再開後初めて本堂に上がる。まず天井の大龍画が目に入る。仰向けに寝て鑑賞する仲間もいた。本尊の畠山重忠の持仏と伝わる薬師如来を拝む。建仁年間(1201～04)に鎌倉の薬師ヶ谷に畠山重忠が創建したと伝わる医王山東光寺が、応仁年間(1467～1469)に釜利谷郷に移転したと伝えられる。東光寺は関東大震災で倒壊、現在地に再建され、後に東光禅寺となった。</p> <p>山道をさらに進むと道傍らの「やぐら」の中に石仏を中心に六地藏が並んでいる。詳しいことは不明だが、これが日月社。壁に「日月」「天保七年申」と彫られていると云うが判読できず。</p> <p>さらに進み右側の急な石段を上がると、崖を掘りぬいた「やぐら」の中に古社が祀られている。これが白山社で白山権現社とも呼ばれている。祭神は白山比咩神(シヤマヒメガ・別名ククリメ)。この白山社が「白山道(シヤマドウ)」の名の由来だといわれている。</p> <p>白山社にて解散し、もと来た道を引き返し大方は白山道バス停から帰途についた。</p>	
<b>参加者の状況・意見など：</b> 曇天で少し寒かったが無事に探訪できた。再開3回目でも半日探訪にも慣れてきたように感じる。休憩がなく少しきつかったとの意見もあった。	
<b>次回の予定：</b> 令和3年1月7日(木)10時 京急六浦駅集合 テーマ「六浦から追浜へ浦賀道を辿る」	